

## 家庭、技術・家庭ワーキンググループ

家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける検討事項

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における教育のイメージ（たたき台）

家庭科、技術家庭科（家庭分野）における見方・考え方（たたき台）

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における思考力・判断力、表現力等の育成イメージ（たたき台）

家庭科、技術・家庭（家庭分野）の学習プロセス（たたき台）

小学校 家庭科の改訂の方向性（たたき台案）

技術・家庭科（家庭分野）の改訂の方向性（たたき台案）

高等学校 家庭科（共通教科）の改訂の方向性（たたき台案）

技術・家庭科（技術分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

技術・家庭科（技術分野）における教育のイメージ（たたき台）

技術・家庭科（技術分野）の見方や考え方の整理（たたき台）

技術・家庭科（技術分野）の学習プロセスの例（たたき台）

技術・家庭科（技術分野）の改訂の方向性（たたき台案）

## 家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける検討事項

1. 家庭、技術・家庭科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・家庭、技術・家庭科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - ) 何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
    - ) 知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)
    - ) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性など)
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力と指導内容の系統性について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点( )を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援(特別支援教育の観点から必要な支援等を含む)条件整備等について

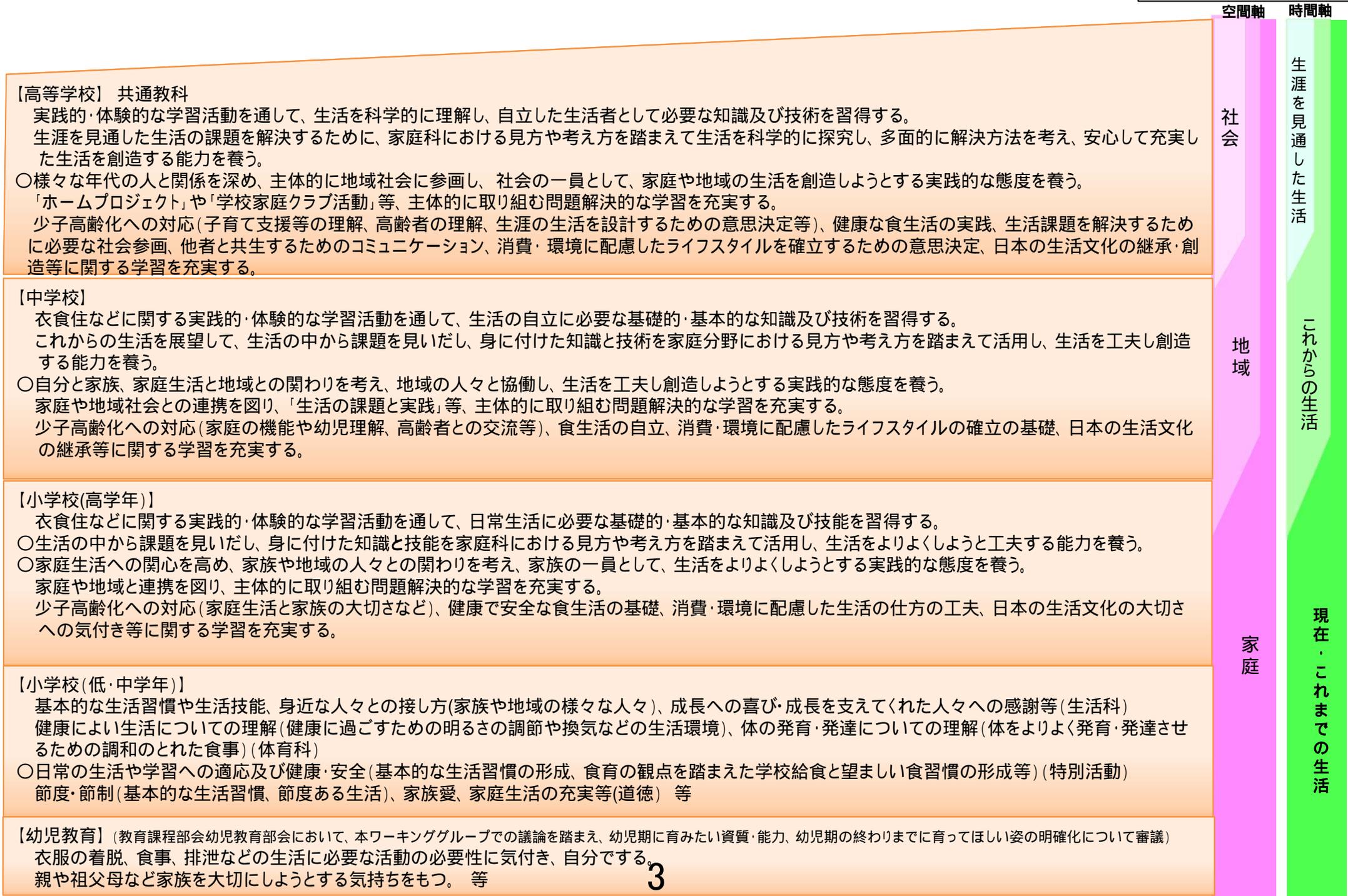
アクティブ・ラーニングの三つの視点(企画特別部会「論点整理」18ページ(及び論点整理補足資料スライド26)参照)

- ) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

# 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年3月11日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料9

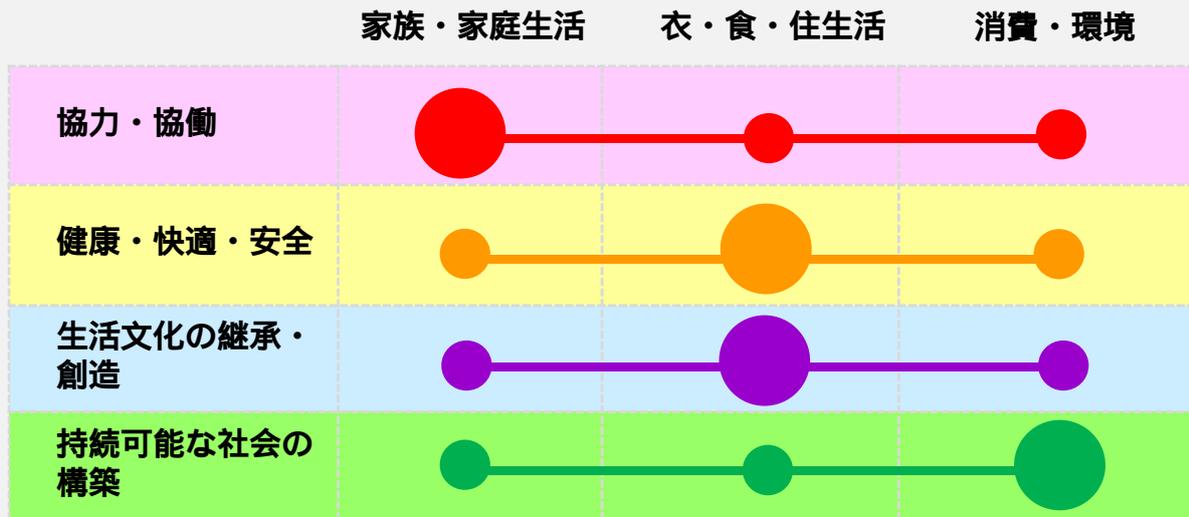
	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
家庭 高等学校 (共通教科)	<p><b>自立した生活者として必要な知識・技術</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する知識・理解、技術</li> <li>・生涯の生活設計に関する知識・理解</li> <li>・各ライフステージに対応した衣食住に関する知識・理解、技術</li> <li>・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための知識・理解、技術</li> </ul>	<p><b>家庭科における見方や考え方を踏まえて、自立した生活者として、生涯を見通して課題を解決し、生活の中で活用する能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、生涯を見通した視点から多角的かつ総合的に考察する力</li> <li>・家族・家庭や社会における問題を課題として把握し、解決策を構想し、計画・評価する力</li> <li>・実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力</li> <li>・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れたり、自分の意見を主張したりして意見交流する力</li> </ul>	<p><b>家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に地域社会と関わり、参画しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度</li> </ul>
技術・家庭 中学校	<p><b>生活者として自立するために必要な基礎的・基本的な知識・技術</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の基本的な機能及び家族、幼児、高齢者に関する知識・理解、技術</li> <li>・生活の自立に必要な衣食住に関する知識・理解、技術</li> <li>・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するために基礎となる知識・理解、技術</li> </ul>	<p><b>技術・家庭科(家庭分野)における見方や考え方を踏まえて、これからの生活を展望して、よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、総合的に考察する力</li> <li>・家族・家庭や地域における問題を課題として把握し、解決策を構想し、計画・評価する力</li> <li>・実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力</li> <li>・他者の意見を取り入れたり、自分の意見を主張したりして意見交流する力</li> </ul>	<p><b>自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々と関わり、協働しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承しようとする態度</li> </ul>
家庭 小学校	<p><b>家族の一員として日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭生活に関する知識・理解</li> <li>・生活の自立の基礎として必要な衣食住に関する知識・理解、技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・理解、技能</li> </ul>	<p><b>家庭科における見方や考え方を踏まえて、よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、考察する力</li> <li>・日常生活における問題を課題として把握し、解決策を構想し、計画・評価する力</li> <li>・実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり発表したりする力</li> <li>・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして意見交流する力</li> </ul>	<p><b>家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を大切にしている心情</li> <li>・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度</li> <li>・生活を楽しもうとする態度</li> <li>・日本の生活文化を大切にしようとする態度</li> </ul>



家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における見方・考え方（たたき台）

○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。

自立し、共に生きる生活の創造



（大きい丸）は、主として捉える見方・考え方について示す。

取上げる内容や題材構成等により、どのような見方・考え方を重視するかは異なる。また、学校段階によって扱うレベルも異なる。

例えば、食生活については、以下のような学習が考えられる。

	見方・考え方	食生活の学習例
高等学校	衣食住に係わる生活事象について、健康・快適・安全等や日本の生活文化を継承・創造する視点から家族・家庭や地域社会における解決すべき問題を科学的に捉え、生涯を見通して衣食住の生活を経営するために考察すること	「栄養と食事」では、青年期と家族の各ライフステージの栄養について、健康、安全、環境の視点から家族・家庭や地域社会における解決すべき問題を科学的に捉え、生涯を見通して食生活を経営するために考察すること。
中学校	衣食住に係わる生活事象について、健康・快適・安全等や日本の生活文化を継承する視点から家族・家庭や地域における解決すべき問題を捉え、これからの生活を展望して衣食住の生活を営むために考察すること	「地域の食材を用いた調理(行事食)」の題材では、健康、日本の生活文化の継承、「食品の選択」の題材では、安全、環境の視点から家族・家庭や地域における解決すべき問題を捉え、これからの生活を展望して食生活を営むために考察すること。
小学校	衣食住に係わる生活事象について、健康・快適・安全等や日本の生活文化への関心の視点から日常生活における解決すべき問題を捉え、衣食住の生活を工夫するために考察すること	「ご飯とみそ汁」の題材では、健康、生活文化の継承、「朝食作り(野菜いため)」の題材では、健康、安全の視点から日常生活における解決すべき問題を捉え、食生活を工夫するために考察すること。

## 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における思考力・判断力、表現力等の育成イメージ(たたき台)

生活の中から問題を見出し、他の生活事象と関連付けて総合的に考察する力

- ・家庭科の見方・考え方をを用いて、様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、生涯を見通した視点から多角的かつ総合的に考察できる。
- ・家庭分野の見方・考え方をを用いて、様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、総合的に考察できる。
- ・家庭科の見方・考え方をを用いて、様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、考察できる。

生活の中に見られる問題を認識して解決策を構想し、計画・評価する力

- ・家族・家庭や社会における問題を課題として把握し、解決策を構想し、計画・評価できる。
- ・家族・家庭や地域における問題を課題として把握し、解決策を構想し、計画・評価できる。
- ・日常生活における問題を課題として把握し、解決策を構想し、計画・評価できる。

考察したこと、構想したことを説明したり、発表したりする力

- ・実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり、発表したりできる。

計画・実践等に関する自分の考えを広げたり、深めたりするために他者と意見交流する力

- ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れたり、自分の意見を主張したりして意見交流できる。
- ・他者の意見を取り入れたり、自分の意見を主張したりして意見交流できる。
- ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして意見交流できる。

上 : 主に高等学校段階  
中央 : 主に中学校段階  
下 : 主に小学校段階

# 家庭科, 技術・家庭(家庭分野)の学習プロセス(たたき台)

生活の課題発見		解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善		家庭・地域での実践
生活を見つめる	課題を設定する	生活に関わる科学的理解に基づいた解決方法を立案・検討し、決定する	解決の見通しをもち、計画を立てる	生活に関わる科学的知識や技能・技術を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う	結果を評価し、振り返る	結果を発表し、改善策を検討する	

生活の中から問題に気づき、解決すべき問題を見付ける力

生活課題を多角的・総合的に考え、計画する力

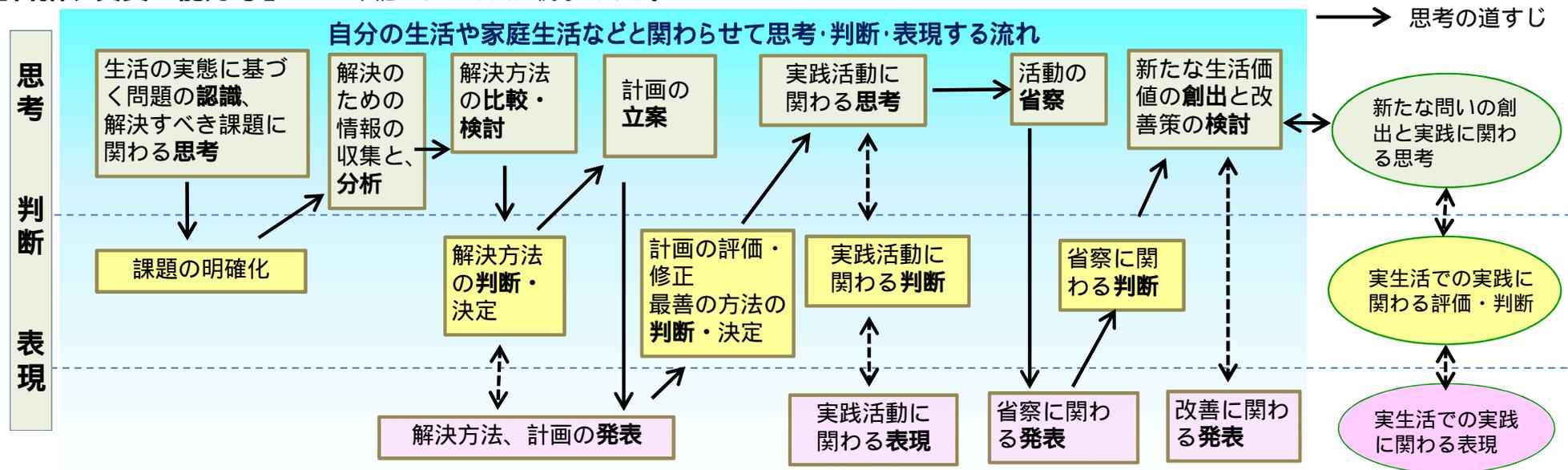
解決策を実践する力

自分の活動を振り返り、改善する力

実生活に応用し実践する力

## 【目指す資質・能力等】

下記のプロセスは例示である。



## 知識・理解

生活課題を解決するための根拠となる知識の習得

家庭科の見方・考え方を踏まえた活用できる知識の習得

## 技能・技術

生活課題を解決するための技能・技術の習得

実生活に活用できる技能・技術の習得

## 学びに向かう態度

- (小) 家族の一員として生活をよりよくしようとする態度 \*家庭生活を大切にできる心情を育み、家族や地域の人々と関わり、協力しようとする
- (中) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、生活を工夫し創造しようとする態度 \*地域の人々と関わり、協働しようとする
- (高) 家庭や地域の生活を創造しようとする態度 \*主体的に地域社会と関わり、参画しようとする
- 生活を楽しみ、味わい、豊かさを創造しようとする態度
- 日本の生活文化に関心をもち、継承・創造しようとする態度

# 小学校 家庭科の改訂の方向性（たたき台案）

## 現行学習指導要領

## 検討事項

## 今後の方向性(案)

### A 家庭生活と家族

- (1) 自分の成長と家族
- (2) 家庭生活と仕事
- (3) 家族や近隣の人々とのかかわり

### B 日常の食事と調理の基礎

- (1) 食事の役割
- (2) 栄養を考えた食事
- (3) 調理の基礎

### C 快適な衣服と住まい

- (1) 衣服の着用と手入れ
- (2) 快適な住まい方
- (3) 生活に役立つ物の製作

### D 身近な消費生活と環境

- (1) 物や金銭の使い方と買物
- (2) 環境に配慮した生活の工夫

### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

### 「論点整理」における指摘事項

- ・生活の科学的な理解
- ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成
- ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化
- ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視
- ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

### 関連する会議における提言等

- 少子化社会対策大綱(H27.3.20閣議決定)  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る
- 高齢社会対策大綱(H24.9.7閣議決定)  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める
  - 第3次男女共同参画基本計画(H22.12.17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る
  - 食育推進基本計画(H23.3.31食育推進会議決定)  
学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する
  - 和食の無形文化遺産登録(H25.12.4)  
日本の伝統的な食文化
  - 消費者教育の推進に関する法律(H24.8.22)  
学校における消費者教育の推進
  - 環境基本計画(H24.4.27閣議決定)  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する

### 目指す資質・能力等

#### 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能

- ・家族・家庭生活に関する知識・理解
- ・衣食住に関する知識・理解、技能
- ・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・理解、技能

#### よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力

生活の中から課題を見だし、身に付けた知識や技能を家庭科における見方や考え方を踏まえて活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力

#### 家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度

家庭生活への関心を高め、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度

### 内 容

#### 家族・家庭生活に関する内容

- 少子高齢化への対応における小中高の系統性を考慮した内容の改善
- ・家族や地域の人々との関わり(異世代)、「家庭の仕事」への協力など、家庭生活と家族の大切さの理解に関する内容の充実(実践的な学習は他教科等と連携)
  - 家庭や地域と連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実

#### 衣食住の生活に関する内容

- 衣食住の生活における小中高の系統性を考慮した内容の改善
- ・生活の自立の基礎を培うための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実
  - ・健康で安全な食生活のための食育の充実
  - ・日本の生活文化の大切さに気付く学習の充実
  - 生活の科学的な理解の重視
  - 家庭や地域と連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実

#### 身近な消費生活と環境に関する内容

- 持続可能な社会の構築への対応における小中高の系統性を考慮した内容の改善
- ・消費・環境に配慮した生活の仕方を工夫する内容の充実  
(実践的な学習は他教科等と連携)
  - 家庭や地域と連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実

小中高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方や考え方を踏まえた内容の改善

# 技術・家庭科（家庭分野）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年3月11日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料13-2

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性(案)	
<p><b>A 家族・家庭と子どもの成長</b></p> <p>(1) 自分の成長と家族</p> <p>(2) 家庭と家族関係</p> <p>(3) 幼児の生活と家族</p> <p><b>B 食生活と自立</b></p> <p>(1) 中学生の食生活と栄養</p> <p>(2) 日常食の献立と食品の選び方</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p><b>C 衣生活・住生活と自立</b></p> <p>(1) 衣服の選択と手入れ</p> <p>(2) 住居の機能と住まい方</p> <p>(3) 衣生活、住生活などの生活の工夫</p> <p><b>D 身近な消費生活と環境</b></p> <p>(1) 家庭生活と消費</p> <p>(2) 家庭生活と環境</p>	<p><b>家庭科の見方や考え方</b></p> <p>家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること</p> <p><b>「論点整理」における指摘事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活の科学的な理解</li> <li>生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成</li> <li>小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化</li> <li>各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視</li> <li>少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成</li> </ul> <p><b>関連する会議における提言等</b></p> <p>少子化社会対策大綱(H27.3.20閣議決定) 妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る</p> <p>○高齢社会対策大綱(H24.9.7閣議決定) 高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める</p> <p>○第3次男女共同参画基本計画(H22.12.17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る</p> <p>○食育推進基本計画(H23.3.31食育推進会議決定) 学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する</p> <p>○和食の無形文化遺産登録(H25.12.4) 日本の伝統的な食文化</p> <p>○消費者教育の推進に関する法律(H24.8.22) 学校における消費者教育の推進</p> <p>○環境基本計画(H24.4.27閣議決定) 学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する</p>	<p><b>目指す資質・能力等</b></p> <p>生活者として自立するために必要な基礎的・基本的な知識・技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の基本的な機能及び家族、幼児、高齢者に関する知識・理解、技術</li> <li>生活の自立に必要な衣食住に関する知識・理解、技術</li> <li>消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる知識・理解、技術</li> </ul> <p>これからの生活を展望して、よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力</p> <p>生活の中から課題を見だし、身に付けた知識と技術を家庭分野における見方や考え方を踏まえて活用し、生活を工夫し創造する能力</p> <p>自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</p> <p>自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</p>	<p><b>内 容</b></p> <p><b>家族・家庭生活に関する内容</b></p> <p>少子高齢化への対応における小中高の系統性を考慮した内容の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭の機能や幼児理解、高齢者との交流など、家族や地域の人々との関わり、家庭生活と地域との関わりに関する内容の充実（実践的な学習は他教科等と連携）</li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul> <p><b>衣食住の生活に関する内容</b></p> <p>衣食住の生活における小中高の系統性を考慮した内容の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活の自立を促すための基礎的な技術の確実な習得を図る学習の充実</li> <li>健康で安全な食生活のための食育の充実</li> <li>日本の生活文化の継承に係る学習の充実</li> <li>生活の科学的な理解の重視</li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul> <p><b>身近な消費生活と環境に関する内容</b></p> <p>持続可能な社会の構築への対応における小中高の系統性を考慮した内容の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費・環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の充実（実践的な学習は他教科等と連携）</li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul>

小中高の系統性、既存の内容の関連性、家庭分野における見方や考え方を踏まえた内容の改善

# 高等学校 家庭科（共通教科）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年3月11日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料13-3

## 現行学習指導要領

## 検討事項

## 今後の方向性(案)

### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

### 「論点整理」における指摘事項

- ・生活の科学的な理解
- ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成
- ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化
- ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視
- ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

### 関連する会議における提言等

- 少子化社会対策大綱（H27.3.20閣議決定）  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る
- 高齢社会対策大綱（H24.9.7閣議決定）  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める
- 第3次男女共同参画基本計画（H22.12.17閣議決定）  
家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る
- 食育推進基本計画（H23.3.31食育推進会議決定）  
学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する
- 和食の無形文化遺産登録（H25.12.4）  
日本の伝統的な食文化
- 消費者教育の推進に関する法律（H24.8.22）  
学校における消費者教育の推進
- 環境基本計画（H24.4.27閣議決定）  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する

## 目指す資質・能力等

### 自立した生活者として必要な知識・技術

- ・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する知識・理解、技術
- ・生涯の生活設計に関する知識・理解
- ・各ライフステージに対応した衣食住に関する知識・理解、技術
- ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための知識・理解、技術

### 生涯を見通して課題を解決し、生活の中で活用する能力

生活を科学的に探究し、多面的に解決方法を考え、安心して充実した生活を創造する能力

### 家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度

様々な年代の人と関係を深め、主体的に地域社会に参画し、社会の一員として、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度

## 内 容

### 必履修科目・単位

#### 2単位科目

- ・少子高齢化への対応における小中高の系統性を考慮した内容の改善
- ・親の役割と子育て支援（乳児期）や高齢者の理解（生活支援技術の基礎）、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実
- ・衣食住の生活における小中高の体系化を考慮した内容の改善
- ・自立した生活者として必要な実践力を定着させる学習の充実（食育、食文化等の充実）
- ・生活の科学的な理解の一層の重視
- ・持続可能な社会の構築への対応における小中高の系統性を考慮した内容の改善
- ・消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実
- ・「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

#### 4単位科目

2単位科目の内容に加えて以下を充実

- ・乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション、高齢者の生活支援の技術、実習の充実
- ・健康、安全等を考慮した衣食住の生活を総合的にマネジメントする力を育成するための学習活動の充実
- ・日本の生活文化の継承・創造に係る内容の充実
- ・消費・環境に係る地域への働きかけなど社会参画力を育成するための実習等の充実
- ・「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

# 技術・家庭科（技術分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年3月11日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料5

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力，人間性等 情意，態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
高等学校	-----	-----	-----
中学校	<p>生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料，加工，エネルギー変換，生物育成，情報等の技術に用いられている科学的な原理・法則の知識</li> <li>・技術を安全・適切に管理・運用できる技能</li> <li>・生活や産業の基盤となる高度な技術や伝統的な技術と，社会・環境との関わりの理解</li> </ul>	<p>生活や社会における問題を解決するために，技術分野の見方や考え方を踏まえつつ技術を評価し，それらを選択，管理・運用したり，自分なりの新しい考え方やとらえ方によって改良，応用したりできる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会における問題の中から技術を用いて解決すべき課題を見出す力</li> <li>・課題の解決策を条件を踏まえて構想し，試行・試作等を通じて解決策を具体化（設計・計画）する力</li> <li>・課題の解決のための方策を製作図，流れ図，作業計画表等に表す力</li> </ul>	<p>よりよい生活や持続可能な社会を構築するために，適切かつ誠実に技術を工夫し創造していかこうとする態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術革新やそれを担う職業分野への関心，勤労観</li> <li>・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度，技術にかかわる倫理観</li> <li>・自らの問題解決及びその過程を振り返り改善しようとする態度</li> </ul>
小学校	-----	-----	-----

## 【高等学校】

（情報の共通必修科目）

情報とそれを扱う技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方の育成  
情報モラル，知的財産の保護，情報安全等に対する実践的な態度の育成

（職業に関する各教科・科目）

各職業分野で求められる基礎的・基本的な知識や技術の習得と，各職業の社会的意義や役割の理解  
各職業分野に関わる課題（職業能力の専門性の深化，持続可能な社会の構築，グローバル化・少子高齢化等への対応）に対して，職業人としての倫理観をもって，主体的・協働的に取り組み，合理的かつ創造的に解決する能力の育成  
産業・社会を支える職業人として必要な豊かな人間性，産業の振興や社会に貢献しようとする態度及び社会の変化に対応して学び続ける態度の育成

## 【中学校】

生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識と技能を習得させ，技術と社会や環境との関わりについて理解を深める。  
生活や社会における技術にかかわる問題を解決するために，技術分野の見方や考え方（技術の特性に着目し，倫理観をもち，安全性，社会からの要求，環境負荷，費用等の面からの見方や考え方）を踏まえつつ技術を評価し，それらを選択，管理・運用したり，自分なりの新しい考え方やとらえ方によって改良，応用したりできる能力を育成する。  
技術について関心をもち，よりよい生活や持続可能な社会を構築するために，適切かつ誠実に技術を工夫し創造していこうとする態度を育成する。  
生活や社会における問題について課題を設定し，技術分野の見方や考え方を踏まえて，解決策が最適なものとなるよう設計・計画し，製作・制作・育成を行うとともに，解決結果・解決過程を評価する学習活動を充実する。  
技術革新及びそれを担う職業分野への関心，生産などの経済的主体等として求められる勤労観，情報活用能力，知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度，使用者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観，安全な生活や社会づくりへの貢献等に関する学習を充実する。

## 【小学校】

表したいことに合わせて，材料や用具の特徴を生かして使うとともに，表現に適した方法などを組み合わせて表す（図画工作）  
材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる（図画工作）  
身近にある物を使ったりなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくり，そのおもしろさに気づく（生活）  
ものづくりの活動を通して，自然の事物・現象の性質や働き，規則性についての実感を持った理解を図る（理科）  
道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳） 等

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において，本ワーキンググループでの議論を踏まえ，幼児期に育みたい資質・能力，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）  
物との多様なかわりの中で，物の性質や仕組みについて考えたり，気付いたりする。  
身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり，いろいろな予想をしたりし，楽しみながら工夫して使う。  
身近な動物の世話や植物の栽培を通じて，生きているものへの愛着を感じ，生命の営みの不思議さ，生命の尊さに気付き，感動したり，いたわったり，大切にしたりする。 等

技術で問題解決をする範囲と影響を及ぼす範囲

社会全体・地球環境・未来

生活範囲・地域環境・現在

技術をまずは  
見つけるは

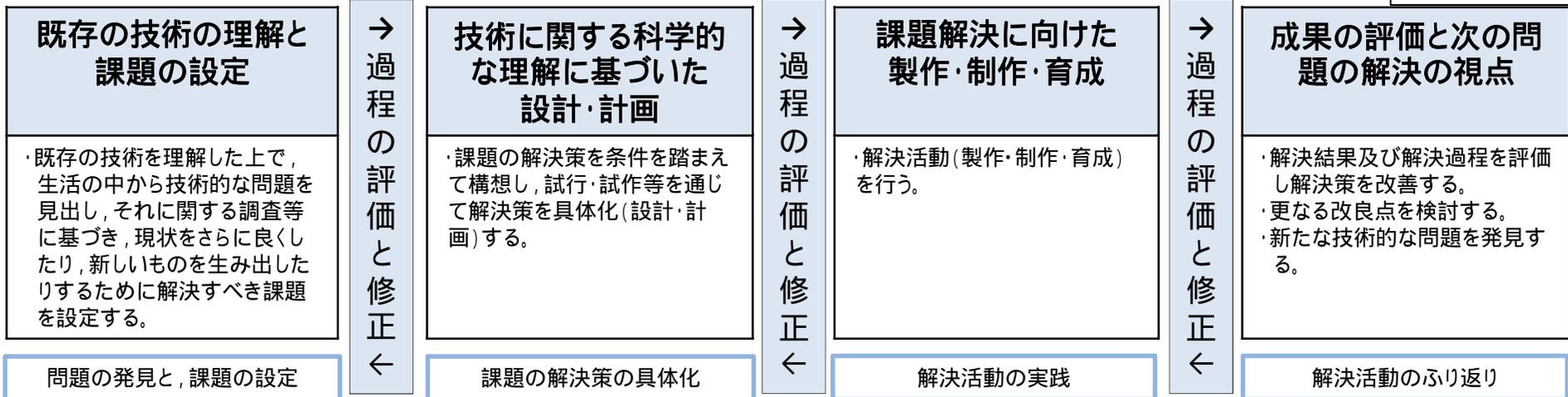
# 技術・家庭科（技術分野）の見方や考え方の整理（たたき台）

## 技術分野の見方や考え方：技術によって問題を解決する際の見方や考え方

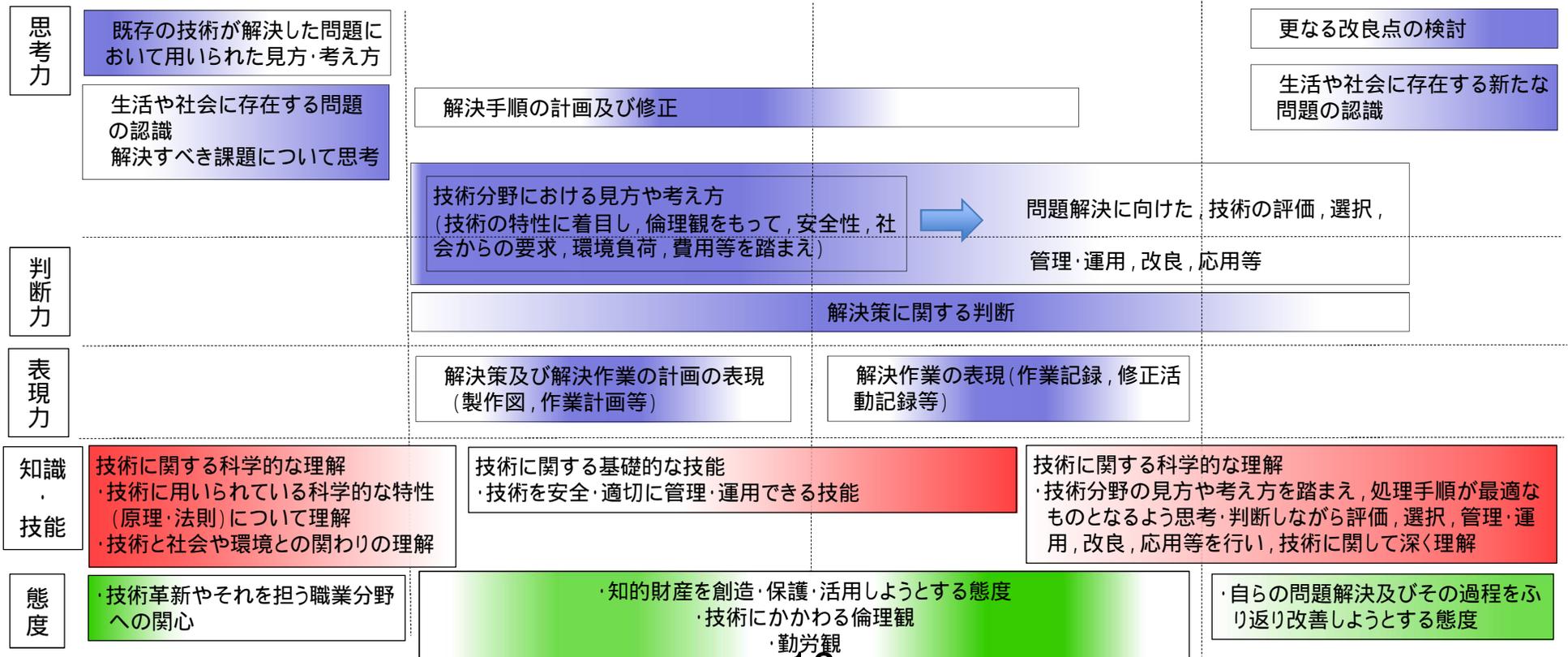
	対象	見方や考え方	技術分野の思考・判断の例	
技術分野	生活や社会で利用されている技術について、	物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、	材料の生成・成形、エネルギーの変換・伝達、生物の育成環境、情報の処理手順等を評価し、それらを最適なものとするための思考・判断	
内容A	材料の技術について	材料を構成する物質の特性や材料の組織に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の生成方法を評価し、最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良すること
	加工の技術について	材料の構造、加工の特性に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の必要な形状・寸法への成形方法、材料の構造を評価し、最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良すること
内容B	生物育成の技術について	育成する生物の成長、はたらき、生態の特性に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、使用時や消費する際の安全性、社会からの要求、生産のしくみ、環境への負荷、品質・収量等の効率面、生命倫理等を踏まえつつ	生物の育成環境の調節方法を評価し、最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良すること
内容C	エネルギー変換の技術について	電気、運動、物質の流れ、熱の特性に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、出力、環境への負荷、省エネルギー等を踏まえつつ	エネルギーの変換、伝達、利用する方法を評価し、最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良、応用すること
内容D	情報の技術について	情報の表現、記録、計算の特性に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、情報の倫理やモラル、活用、管理、システム等を踏まえつつ	情報のデジタル化や計算化による処理の方法を評価し、最適なものとなるよう	選択、管理・運用、改良、応用すること

# 技術・家庭科（技術分野）の学習プロセスの例（たたき台）

平成28年3月11日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料7



【目指す資質・能力と評価場面の例】 下記に示す各プロセスは例示であり、下例に限定されるものではないこと



# 技術・家庭科（技術分野）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年3月11日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料8

現行学習指導要領	検討事項	今後の方向性(案)								
<p><b>A 材料と加工に関する技術</b></p> <p>(1) 生活や産業の中で利用されている技術</p> <p>(2) 材料と加工法</p> <p>(3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作</p> <p><b>B エネルギー変換に関する技術</b></p> <p>(1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検</p> <p>(2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作</p> <p><b>C 生物育成に関する技術</b></p> <p>(1) 生物の生育環境と育成技術</p> <p>(2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育</p> <p><b>D 情報に関する技術</b></p> <p>(1) 情報通信ネットワークと情報モラル</p> <p>(2) デジタル作品の設計・制作</p> <p>(3) プログラムによる計測・制御</p>	<p><b>技術分野の見方や考え方</b></p> <p>生活や社会で利用されている技術について、物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を解決するに当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえる見方や考え方</p> <p><b>「論点整理」における指摘事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術を適切に評価・活用し、安心・安全な生活の実現に貢献できる力</li> <li>・技術を創造し、よりよい社会を構築できる力</li> <li>・育成すべき資質・能力の明確化</li> <li>・技術に関する科学的な理解</li> <li>・技術と社会・環境との関わりの理解の充実</li> <li>・プログラミングや情報セキュリティ等も含めた情報活用能力の育成等の充実</li> <li>・小学校図画工作科、高等学校情報科、職業に関する教科・科目等との関連</li> </ul> <p><b>関連する会議における提言等</b></p> <p>世界最先端IT国家創造宣言（平成27年6月30日一部改訂）：初等・中等教育段階におけるプログラミングに関する教育の充実に努め、ITに対する興味を育むとともに、ITを活用して多様化する課題に創造的に取り組む力を育成する。</p> <p>成長戦略の進化のための今後の検討方針（平成28年1月25日 産業競争力会議）；第4次産業革命に向けて、異なる多様な知を結びつけながら新たな付加価値を生み出す創造的な活動を行うことができる人材を育成することが必要</p> <p>知的財産推進計画2015（平成27年6月 知的財産戦略本部）：青少年の知財に対する意識と知識を向上させ知財人材の裾野拡大につなげるべく、小中高等学校において知的財産に関する教育の推進を図る</p>	<p><b>目指す資質・能力等</b></p> <p>技術についての基礎的・基本的な知識と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術に用いられている科学的な原理・法則の知識</li> <li>・技術を安全・適切に管理・運用できる技能</li> <li>・生活や産業の基盤となる高度な技術や伝統的な技術と、社会・環境との関わりの理解</li> </ul> <p>問題を解決するために、技術分野の見方や考え方を踏まえつつ技術を評価し、それらを選択、管理・運用したり、改良、応用したりできる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会における問題の中から技術を用いて解決すべき課題を見出す力</li> <li>・課題の解決策を条件を踏まえて構想し、試行・試作等を通じて解決策を具体化する力</li> <li>・課題の解決のための方策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力</li> </ul> <p>適切かつ誠実に技術を工夫し創造していることとする態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術革新やそれを担う職業分野への関心、勤労観</li> <li>・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度、技術にかかわる倫理観</li> <li>・自らの問題解決及びその過程をふり返り改善しようとする態度</li> </ul> <p><b>学習プロセス</b></p> <table border="1" data-bbox="1108 1220 2139 1380"> <tr> <td>既存の技術の理解と課題の設定</td> <td>→ 過程の 修正 と 評価 ←</td> <td>技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画</td> <td>→ 過程の 修正 と 評価 ←</td> <td>課題解決に向けた製作・制作・育成</td> <td>→ 過程の 修正 と 評価 ←</td> <td>成果の評価と次の問題の解決の視点</td> </tr> </table> <p>社会を支える技術</p> <p>技術による問題解決</p> <p>社会の発展と技術</p>	既存の技術の理解と課題の設定	→ 過程の 修正 と 評価 ←	技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画	→ 過程の 修正 と 評価 ←	課題解決に向けた製作・制作・育成	→ 過程の 修正 と 評価 ←	成果の評価と次の問題の解決の視点	<p><b>内容</b></p> <p><b>A 材料と加工の技術</b></p> <p>社会を支える材料と加工の技術 材料と加工の技術による問題解決 社会の発展と材料と加工の技術</p> <p><b>B 生物育成の技術</b></p> <p>社会を支える生物育成の技術 生物育成の技術による問題解決 社会の発展と生物育成の技術</p> <p><b>C エネルギー変換の技術</b></p> <p>社会を支えるエネルギー変換の技術 エネルギー変換の技術による問題解決 社会の発展とエネルギー変換の技術</p> <p><b>D 情報の技術</b></p> <p>社会を支える情報の技術 コンピュータ・ネットワークによる問題解決（プログラミングによる動的コンテンツ作成） 機器の自動化による問題解決（プログラミングによる計測・制御） 社会の発展と情報の技術</p> <p>1年の最初に扱う内容の「社会を支える技術」は、技術分野全体のガイダンス的な内容として指導する</p> <p>3年で取り上げる内容の「技術による問題解決」は、他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱う</p>
既存の技術の理解と課題の設定	→ 過程の 修正 と 評価 ←	技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画	→ 過程の 修正 と 評価 ←	課題解決に向けた製作・制作・育成	→ 過程の 修正 と 評価 ←	成果の評価と次の問題の解決の視点				